

都市再生整備計画

おおいずみまちかみこいずみ

大泉町上小泉地区

ぐんま おおいずみ
群馬県 大泉町

令和5年11月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	群馬県	市町村名	おおいずみまち 大泉町	地区名	かみこいずみ 上小泉地区	面積	23.6 ha
計画期間	令和 5 年度 ~ 令和 9 年度	交付期間	令和 5 年度 ~ 令和 9 年度				

目標
 大目標 快適な住環境と産業の活性化に向けた治水対策による活気のあるまちづくりの推進
 小目標① 産業団地造成に併せ、周辺住宅での内水氾濫対策として調整池等を整備し、地域防災機能の向上を図る。
 小目標② 周辺の整備を含めた産業団地の造成を起点とし、地域雇用を創出することで、まちなかへの移住・定住の促進を図る。
 小目標③ 企業誘致による税収の増加を見込み、中心市街地でのインフラ整備や住民サービスの向上に繋げる。
 小目標④ 調整池周囲を歩道化し、地域住民の憩いの場とするほか、小泉町駅から産業団地への経路として活用できる環境を整備することで、自動車利用の低減及び交通渋滞の緩和を図る。

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
【まちづくりの経緯】
 ・大泉町は、群馬県の東南に位置し、東は邑楽町と千代田町、西から北にかけては太田市、南には利根川を挟んで埼玉県熊谷市と隣接している。面積は18.03km²で、県内で一番小さい自治体であるが、令和5年8月末現在の総人口は41,515人で、県内の町村では最も多く、そのうち8,254人の外国人も生活を営む国際色豊かな町となっている。
 ・昭和32年、小泉町と大川村が合併した誕生した本町は、昭和35年に「首都圏市街地開発区域」の指定を受けてからは企業誘致を積極的に進め、北関東でも屈指の製造品出荷額を誇るとともに、いずみ緑道をはじめとして公園や街路などの都市施設整備を積極的に進め、美しい都市景観を持つ町となっている。
 ・ものづくりの町として発展を続け、多くの優良企業が本町に進出している中、関連企業には多くの外国人が就労し、町民の約20%が外国人であり、外国人人口が急増した平成2年の入管法改正以来、多文化共生施策を積極的に推進している。
【まちづくりの現況】
 ・本町は、面積が小さく市街化区域も広いため社会基盤の整備は進んでいるが、町の人口ビジョンでは、全国的な動向と同様に人口減少が見込まれている。
 ・そのような中、活気があり魅力あふれる地域づくりを行い、町の人口減少を抑制させるため、役場庁舎、駅を中心としたさらにコンパクトなまちづくりを推進している。
 ・その取り組みとして、現役場庁舎隣接地に用地を取得し、新庁舎の建設や敷地内に様々なイベント等が実施できる多目的広場の設置、将来的に公共施設の集約を検討するなど、町の賑わいを創出する場を設けるとともに、小泉町駅の北西部において、企業を誘致し新たな雇用創出するための新産業団地の開発を計画している。

課題
 ・新産業団地造成による周辺への水害リスク増大を回避するため、治水施設等の周辺環境を整備する必要がある。
 ・当該地域の住みやすさの向上、小泉町駅から産業団地までの経路を確保するため、調整池周囲を歩道として整備する必要がある。
将来ビジョン(中長期)
 ・治水対策を施した新産業団地の造成による、地域住民の住環境の向上を図るとともに、企業誘致を行い産業の活性化を図る。
 ・企業誘致による雇用の創出を図ることで、人口の維持を目指す。
 ・駅から産業団地への歩道化をPRするほか、企業側に社員送迎バスの運行を促すなど、公共交通機関等の利用を促進することで、低炭素社会の実現につなげる。

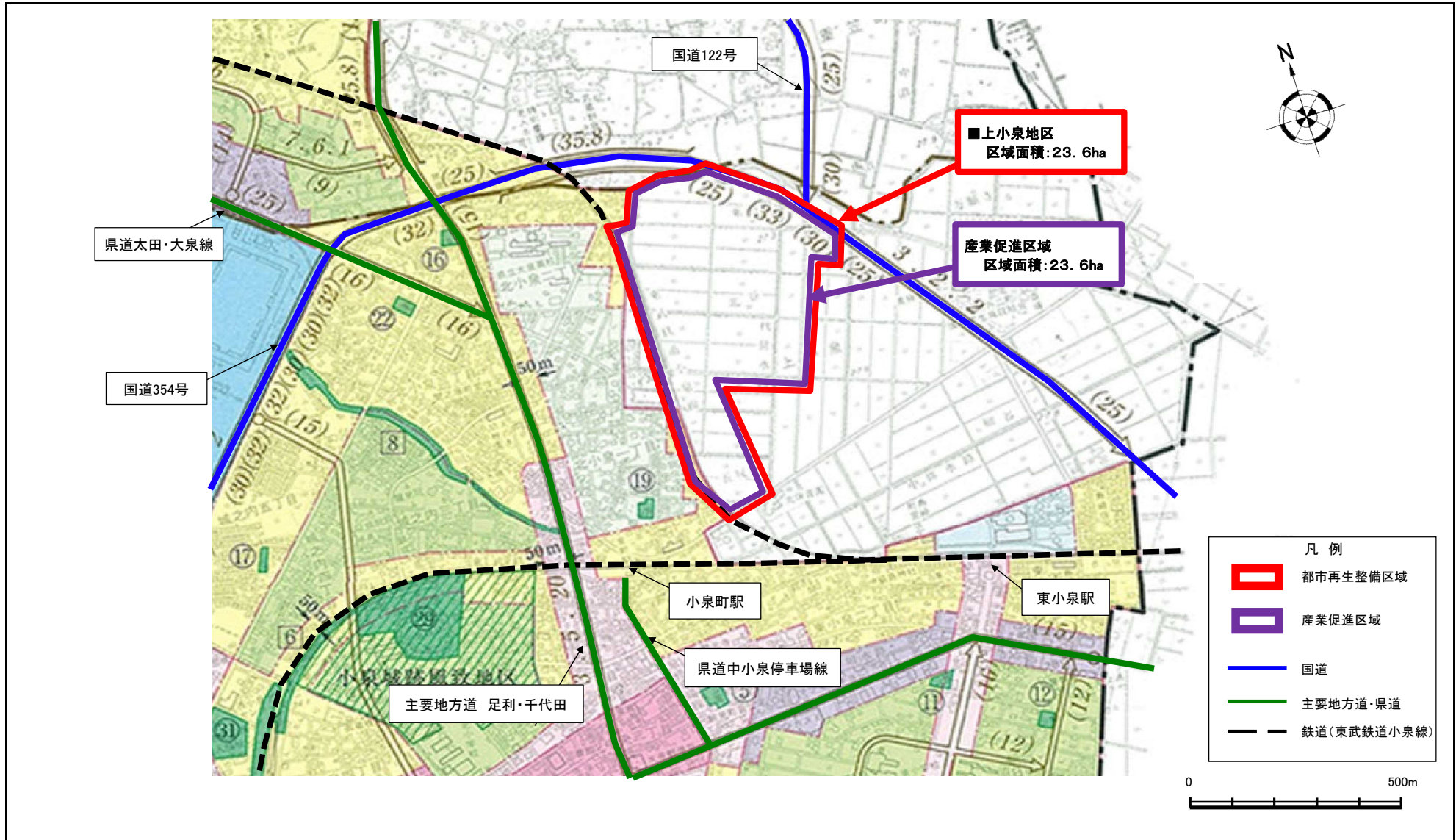
都市再生整備計画事業の計画
 都市のコンパクト化の方針
 本町の都市構造は、平坦な地形の上に大規模工場を核とする工業地を中心とした住宅市街地が広がっており、計画的な市街地開発に伴う幹線道路が整備されている。人口減少を見据えた将来の都市構造を検討するにあたっては、西小泉駅や東小泉駅、新庁舎建設地を中心に、交通・商業・医療・福祉等の都市機能を集積させ、その拠点を中心に居住を誘導し、人口集積を維持・増加させていく。
 新産業団地については、町の北西端の幹線道路沿いに位置しており、都市機能の集積、居住地域への影響はなく、新たな雇用を創出することで本町の人口維持、活性化に繋がる。
 産業促進区域の考え方
 製造業等の集積を促進するため、新たに整備する(仮称)上小泉地区産業団地及び周辺道路や調整池等の施設も含めて産業促進区域と設定。また、市街化区域等外であるため、産業促進区域内には、大規模商業施設等、居住の誘導を図るおそれのある施設を含めていない。
 公共交通、自転車の利活用など産業促進区域への自動車交通抑制への取組(見込みを含む)
 ・洪水調整池周辺の歩道化により、駅から産業団地までの通勤経路を確保し、公共交通機関の利用促進を図る。
 ・進出企業に対し、従業員向けの送迎バス運行を促し、自動車での通勤を抑制させる。また、貨物輸送頻度の調整等、運送の合理化を促す。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
駅の乗降者数	人/日	小泉町駅の乗降者数(1日平均)	公共交通機関利用促進による地域交通渋滞緩和及び自家用車から公共交通利用への転換を図る	340	R4年度	370	R9年度
冠水箇所	箇所	上小泉地区、北小泉地区における内水氾濫箇所	地域防災機能の向上を図る	3	R4年度	0	R9年度
製造品出荷額	万円	本町の製造品出荷額	産業団地の造成及び企業誘致による産業の活性化を図る。	53,172,435	R3年度	55,884,764	R9年度
従業者数	人	本町の従業者数	産業団地の造成及び企業誘致による雇用の創出を図る。	11,851	R4年度	12,150	R9年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【治水設備等の整備による安全で安心な住環境の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業の活性化に向けた新たな産業団地の造成により、西側住宅地における道路冠水等の水害リスクの増大が見込まれることから、住民が快適かつ安全・安心に生活できるよう、治水設備を整えるため、調整池等の工事を行う。 調整池の工事に際しては、小泉駅から産業団地への経路を整えとともに、住民の憩いの場となるよう、周辺の歩道化の整備も合わせて行う。 安全な流水を促すための線路下の対策工事を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【基幹事業】 (地域生活基盤施設 地域防災施設)上小泉地区洪水調整池整備事業(仮称) 【基幹事業】 (地域生活基盤施設 地域防災施設)上小泉地区排水管新設改修工事(仮称) 【基幹事業】 (地域生活基盤施設 地域防災施設)北小泉地区鉄道横断管改修工事(仮称) 【関連事業】 1級路線町道3号線ほか11路線側溝改修工事(仮称)
その他	

上小泉地区(群馬県大泉町)	面積	23.6 ha	区域	大泉町上小泉の一部
---------------	----	---------	----	-----------



上小泉地区(群馬県大泉町) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金))

目 標	大目標 快適な住環境と産業の活性化に向けた治水対策による活気のあるまちづくりの推進 小目標① 産業団地造成に併せ、周辺住宅での内水氾濫対策として調整池等を整備し、地域防災機能の向上を図る。 小目標② 周辺の整備を含めた産業団地の造成を起点とし、地域雇用を創出することで、まちなかへの移住・定住の促進を図る。 小目標③ 企業誘致による税収の増加を見込み、中心市街地でのインフラ整備や住民サービスの向上に繋げる。 小目標④ 調整池周囲を歩道化し、地域住民の憩いの場とするほか、小泉町駅から産業団地への経路として活用できる環境を整備することで、自動車利用の低減及び交通渋滞の緩和を図る。	代表的な指標	駅の乗降者数 (人/日)	340	(R4年度)	→	370	(R9年度)
			冠水箇所 (箇所)	3	(R4年度)	→	0	(R9年度)
			製造品出荷額 (万円)	53,172,435	(R3年度)	→	55,884,764	(R9年度)
			従業者数 (人)	11,851	(R4年度)	→	12,150	(R9年度)

